

本学学生および卒業生の 障害者スポーツトレーナーの資格取得を目指して

松井 康

筑波技術大学 保健科学部 保健学科 理学療法学専攻

キーワード：障害者スポーツトレーナー, テーピング, 足関節内反捻挫

成果の概要

障害者スポーツ協会公認の障害者スポーツトレーナーという資格がある。この資格を取得するためには、障害者スポーツ協会が開催する講習会を受講する必要がある。その講習会を受講する条件は二つあり、一つは日本体育協会公認のアスレティックトレーナーの資格を有していることである。もう一つの条件として、理学療法士や鍼灸・あんまマッサージ指圧師などといった医療資格を有し、かつ障害者スポーツの現場で二年以上トレーナーの経験を積んだものとされている。本学は視覚障害・聴覚障害者を対象としている我が国唯一の高等教育機関であり、障害者スポーツが盛んである。そのため、障害者スポーツの現場でトレーナーの経験をすることは比較的容易であり、かつ医療資格を取得できる専攻を有しているため、資格の取得を目指すことは可能である。2020年には東京オリンピック、パラリンピックが開催されることが決まっており、障害者スポーツトレーナーの資格を取得することにより、2020年の東京パラリンピックでトレーナーとして活躍することも可能であると考えられる。

本事業は、障害者スポーツトレーナーの有資格者が、本学の在学学生および卒業生の中で障害者スポーツトレーナーの資格を取得したい者を対象に、障害者スポーツトレーナーの資格取得に必要な、知識や技術を教えることにより、今後、医療資格を取得した後、障害者スポーツトレーナーの資格の取得の一助となることを目的とする。

参加者は15人（男性12人、女性3人）であった。障害者スポーツトレーナーの有資格者が、参加者に対して、

障害者スポーツトレーナーの資格取得に必要な知識や技術を教えた。参加者は視覚障害を有する本学の学生であるため、特にテーピング技術の習得が大変であることが推測されるため、テーピング技術の習得に時間を多くかけた。テーピング技術は、巻くのにかかる時間により、習得の程度を評価できるため、巻き方を覚えた段階で、一度足関節のテーピングを巻くのにかかる時間を計測し（初期評価）、その後練習を行い、再度時間を計測し（最終評価）、上達したかどうかを判定した。練習前後でのテーピングを巻くのにかかる時間の比較には対応のあるt検定を用いて、効果判定を行った。

初期評価と最終評価のどちらも測定をできた学生は8人（男性6人、女性2人）であった。年齢 21.6 ± 3.7 歳であった。視覚障害に関する情報としては、視力が右 0.12 ± 0.12 、左 0.13 ± 0.19 で、中心暗点3人、視野狭窄3人、羞明1人、眼振1人であった。

結果は、初期評価時の時間は 451 ± 109 秒、最終評価時の時間は 312 ± 65 秒であり、有意に改善がみられた。

本事業の結果より、視覚障害者においても、練習を積むことにより、スポーツトレーナーに必須の技術であるテーピング技術を習得することが明らかとなった。今後、テーピング技術の習得希望者に対しては、その視覚障害に応じた配慮を行いながら指導し、テーピング技術の習得を促していくとともに、他のスポーツトレーナーに必要な技術に関しても、検討を行っていく。